

これまでの歩み ～市民参加型の協働プロジェクト～

多摩川を愛する市民の活動が、行政や法律までも動かしました。

「環管計画」の大きな特徴は、市民参加型の協働プロジェクトであることです。その発端は、昭和40年代にまで遡ります。当時は、多摩川流域の急激な都市化によって、水質悪化など自然環境の破壊が問題視されていました。そこで立ち上がったのが周辺の住民たちです。自然保護の意識は高まり、これらの活動を受け京浜工事事務所ではいち早く河川環境課を設置。以後、双方が直接話し合いを重ねるなど、全国に先駆けて市民と行政のパートナーシップが生まれました。





時代の変化に合わせた「河川環境」

1980年(昭和55年)、それまで「治水」「利水」中心だった河川管理にはじめて「河川環境の秩序ある保全と利用」の考えを盛り込んだ「環管計画」が生まれます。この計画は河川管理のあり方を見つめ直す契機となり、その後の河川法の改正に影響を与えることになりました。1998年(平成10年)には、市民、学識経験者、流域自治体、河川管理者が参加する「多摩川流域懇談会」がスタート。市民と行政の関係はより強まり、2001年(平成13年)「多摩川水系河川設備計画」を策定。同時に「環管計画」も時代の変化に合わせて改訂されました。

